

B-36 糊付布の衛生加工処理による防黴効果について

愛知淑徳短大 ○栗原ひろ子
古田 幸子

1. 製織中の摩擦を緩和するためや、仕上げ効果を増大させるために、糊付けが行なわれるが、これら糊剤は度々黴の栄養源となって繊維を損傷、劣化させる場合が多い。筆者等は澱粉系、セルロース系、海藻系、アクリル系、ビニール系糊剤を用い、黴の繁殖状況、強伸度の変化、さらに衛生加工剤を処理した場合の防黴効力を検討した。

2. 綿平織布に各糊剤を5%、10%(対布)、浴比1:10、で15分間浸漬、付着させローラーで脱水、乾燥後その試料を寒天培地に添付し、黴の生育状況を観察した。また35日目、55日目、75日目、100日目毎の織糸の強度をテレシロンにより測定した。さらに糊付け乾燥後の試料を市販の衛生加工剤5種で処理し、Hallo-Testにより防黴効果を検討した。

3. 糊付布の黴による劣化はかなり早く現われ、12日目頃より糊付上に黴の発生が認められ、55日目では約80%の強度劣化が認められた。また糊は布に衛生加工処理した場合かなり効力が認められた。